

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる児童の育成

児童が自ら主体的に学習に取り組めるようにするために、本校では継続して、日々の授業のさらなる充実を目指していく。具体的には、児童が日々の授業を通して学習内容がわかる「充実感」を感じ、児童自ら自分の力でできた「達成感」が味わえる授業を積み重ねていくことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

【学力向上のための取組 ～5本柱～】

- ① 児童一人一人の学習状況に応じた指導の充実（加配教員を活用した指導）
- ② 授業改善プランの実践的な活用
- ③ 「ちょこっと研修」を核とした授業改善
- ④ 計算スキルタイム、読書タイム、笹引タイム（算数補習）、NIE、ICTを活用した教育課程の工夫
- ⑤ 「家庭学習カード」の活用と学校だよりを通じた家庭学習に対する啓発

成果につながっていると考えられる取組としては、主に①と④があげられる。昨年度より3年生～6年生の算数科の授業について、少人数指導を実施してきた。当初は、単純に学級を二つに分け、授業を行ってきた。本年度からは、児童の実態や習熟度により即した指導の充実を図っている。具体的には、これから学ぶ学習内容の見通しを児童にもたせ、児童自らがコースを選択できるようにした。加えて、少人数指導を担当する教員と学級担任とが密に連携し、一人一人の学習状況を把握しながら、指導にあたるようにしている。その結果、「できてうれしいと感じることが多くなった」「少人数指導で以前よりもわかるようになった」と答えた児童の数値（学習アンケート）が上昇した。

また、本校では、火曜日6校時に5、6年生対象に笹引タイム（算数補習）を実施している。全職員で5、6年生の指導にあたる時間を設定している。本年度より、算数の領域ごと



笹引タイムの様子

にコースを設定し、児童が苦手と感じている領域を児童自らが選択できるようにした。その結果、児童の学習に取り組む意識が高まり、問題の解き方がわからない児童に教える姿や、より難しい問題に挑戦しようとする姿など、積極的な姿が多く見られた。ちばっ子チャレンジ100の問題を活用する等、問題作成の面でも工夫した。

さらに、読売ワークシートの活用などのNIEの取組やタブレット端末を活用した資料づくり等、児童が学習内容に対して、具体的でわかりやすい授業づくりにも日々、努めている。今後も継続していきたい。

今後の課題

「ちょこっと研修」

「日頃の授業をお互いに見合う」という形で研修の機会を設けることができなかった。日々時間が限られた中で、定期的の実現することが難しかった。しかし、授業後の板書を見合うことを意識的に取り入れたことで、板書の作り方という点で向上した項目もあった。（授業評価アンケート）

今後は、専科の時間などの学級担任の空き時間に他の先生方の授業を参観する機会を意図的に作っていききたい。まずは、授業時間すべてでなくとも、発問の仕方、板書の作り方、児童の活動のさせ方等、視点を設けて参観できるようなシステムづくりを心がけていきたい。